



第1地域 行動計画推進リーダー 菅原 裕典（仙台泉 RC）

私は第1地域 行動計画推進リーダー（APC）として、各地区、クラブまでロータリーの「行動計画（Action Plan）」を浸透させるべく携わってまいりました。本稿では、行動計画を各クラブ単位まで確実に浸透させるサポートをするための「クラブサポートミーティング」について触れてみたいと思います。

ここ数年で社会環境や会員の価値観は大きく変化しました。コロナ禍を経て、例会の形態、参加動機、奉仕のあり方が多様化しています。国際ロータリーが掲げる「より大きなインパクトをもたらす」は、単なる会員数の増加だけでは達成できません。

継続性・適応力・包摂性を兼ね備えたクラブ運営が求められており、クラブサポートミーティングは各クラブの運営や課題を支援したり、具体的に相談したりする定期開催の会合です。



クラブサポートミーティングには、大きく分けて3つの目的があります。

1. 現状把握と課題共有

会員数、維持率、出席率、プロジェクト数などの定量データと、参加意欲や満足度といった定性情報を可視化します。

2. 戦略的支援の提供

単発の助言に留まらず、3年目標（3-Year Rolling Goals）など中長期の視点でクラブの成長計画を共に描き、年次レビューで柔軟に修正します。

3. 成功事例の横展開とリソース連携

有効な施策を他クラブへ展開し、人的・物的リソースを最適に配分することで、地域全体のインパクトを高めます。これらを通じて、地区・地域組織は「数字だけを追う管理者」ではなく、クラブの伴走者として機能することが期待されます。

次に、ミーティングで扱うべき具体テーマと進め方についてまとめてみましょう。

● ベースラインデータの確認

会員数、維持率、出席率、プロジェクト数、参加者属性を共有し、クラブごとの現状を共通認識にします。

● 3年ローリング目標の策定支援

会長、会長エレクト、会長ノミニニーを交え、定量的な3年目標と年次KPIを設定します。

● パイロット施策の設計と評価

小規模で試行し、データと参加者フィードバックで改善するサイクルを回します。

● 若手・多様層の参加促進

衛星クラブやローターアクトとの連携、柔軟な例会形態の導入など、包摂性を高める具体策を検討します。

● 広報と可視化

成功事例を地域内外に発信し、参加機会を増やすための広報支援を行います。

運営のポイントとしては、事前に簡潔なデータシートを配布し、ミーティングは「診断→提案→合意→実行計画」の流れで進めることです。年次レビューの結果は次年度計画に必ず反映させることが重要です。

既存クラブの文化や価値観を短期間で変えることは容易ではありません。そこで、衛星クラブやローターアクトクラブの創設は、包摂性を実現する有力な手段です。若年層や多様な背景を持つメンバーを受け入れ、彼らの力で地域課題に取り組んでもらうことで、ロータリー全体のブランドと地域インパクトを高められます。既存クラブは支援と連携を通じて新たな価値を共創できます。

今年度から定期開催されているガバナー主催のクラブサポートミーティングは、単なる報告会ではなく戦略的支援の場として活用してください。ガバナーや地域リーダーには次の役割を期待します。

- 戦略提案者：クラブごとの3年目標設計を支援する。
- 調整者：地域内のリソースや成功事例を結びつける。
- 伴走者：実行段階での課題解決を共に行う。

数字は重要ですが、数字を生むための「仕組みづくり」と「人の巻き込み」がより重要です。ガバナーや地域リーダーの戦略的な関与が、クラブの自律的な成長を促します。

クラブサポートミーティングは、地域とクラブが互いに学び合い、実行力を高めるための貴重な機会です。まずはベースラインの整理と3年目標(3-Year Rolling Goals)の共有をお願いします。必要であれば私が説明会に伺い、実務的な支援を行います。皆さまのご協力と積極的な参加を心よりお願い申し上げます。